

《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第8週のインフルエンザの推定受診者数は約63万2000人となり、3週連続で減少がみられた。今後はB型インフルエンザの割合が増加してくるものと予想される』

2017年2月28日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第8週（2月20日～26日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は631,961となり、3週連続して減少しました（図1）。休日明けの月曜日（2月27日）の推定受診者数は114,999と4週連続して前週の月曜日の値よりも減少がみられており、第9週（2月27日～3月5日）も更に減少が続くと予想されます（図2）。

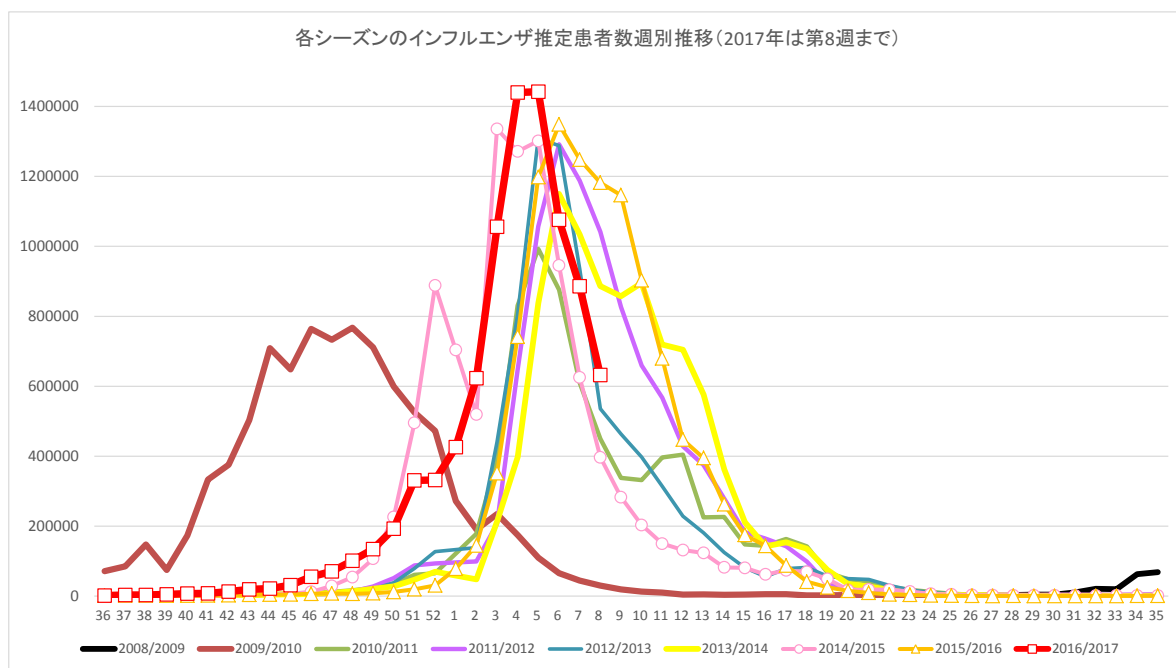


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第8週の推定受診患者数= 631,961）

2017年2月28日（2月27日分更新）

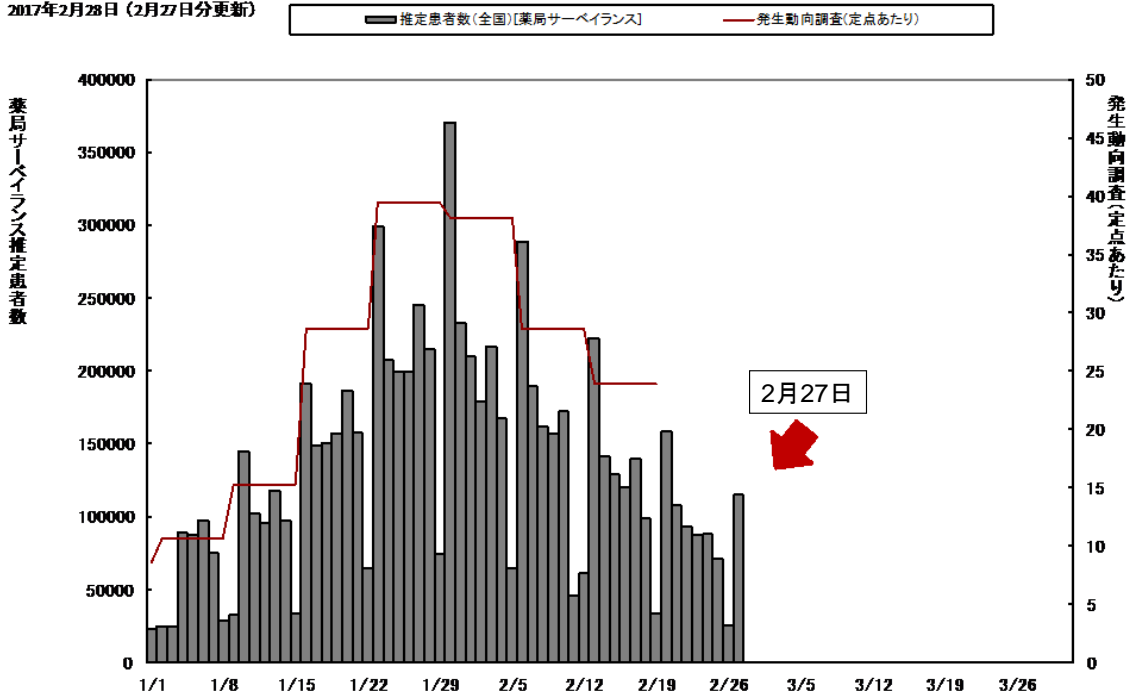


図2. インフルエンザ推定受診患者数の日別推移（2017年1月1日～2017年2月27日；2017年2月27日の推定受診患者数= 114,999）

2016年第36週から2017年第8週までの累積の推定患者数は8,910,550であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、推定の累積罹患率は約7.02%となりました。累積罹患率を年齢群別で比較すると5～9歳（23.80%、1,263,556人）、10～14歳（21.43%、1,178,791人）、0～4歳（15.17%、779,855人）、15～19歳（12.88%、770,193人）、30～39歳（6.59%、1,002,361人）、20～29歳（6.46%、820,672人）、40～49歳（5.84%、1,107,744人）、50～59歳（5.09%、782,303人）の順となっています（図3）。第8週は全ての年齢群で罹患率の減少が見られました。

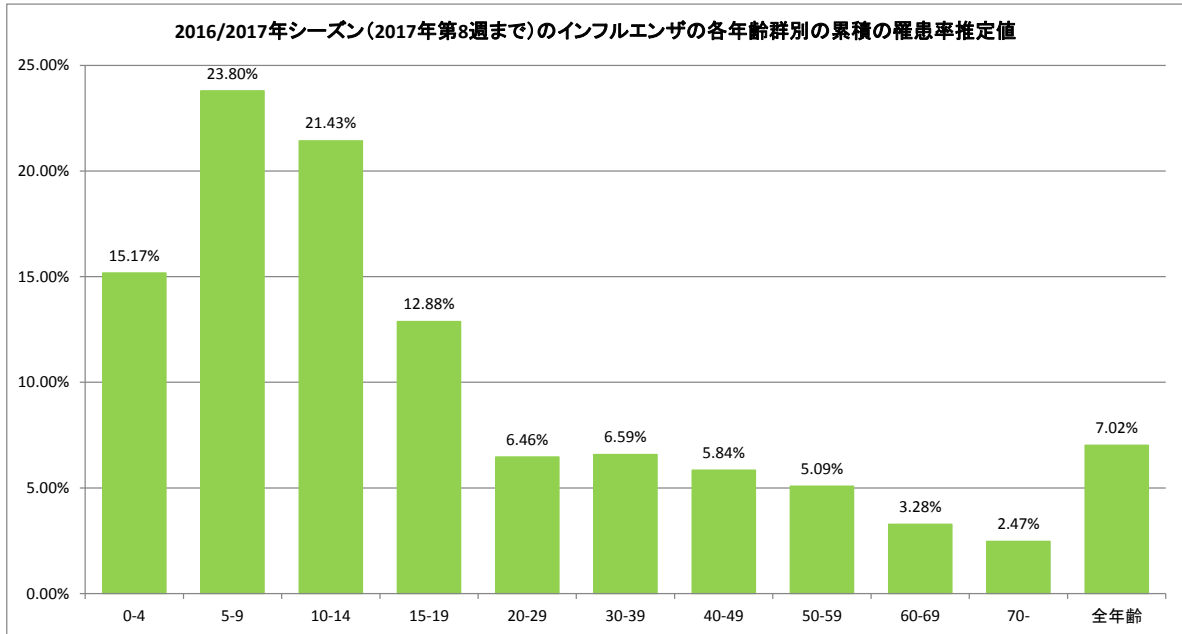


図3. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016年第36~2017年第5週、累積の推定受診患者数総計= 8,910,550)

各都道府県別の2017年第8週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、福井県、新潟県、富山県、長野県、大分県、秋田県、北海道の順となっています。新潟県と沖縄県を除く45都道府県で前週(第7週)よりも減少がみられました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、今シーズンこれまでにインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(3,579検体解析)は、A/H3(A香港)亜型が92.2%と大半を占めており、次いでB型4.0%、A/H1pdm3.8%の順となっています。

2017年第8週のインフルエンザの推定受診者数は約63万2000人となり、3週連続で減少しました。今後も減少傾向は継続していきますが、その速度は緩やかとなり、B型インフルエンザの割合が増加してくるものと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。